



退職と後任のごあいさつ

21年間お世話になりました

原田 修

4月30日付けで日本野鳥の会を退職し、苫小牧に戻ることになりました。縁あって2度の赴任で合計21年間、鶴居でタンチョウに関わられたことは、私にとってこの上なく幸せな時間となりました。1996年の最初の赴任の際、農場での追払いで初めてタンチョウを間近に見ました。第一印象は「でかい」でした。その後、タンチョウのいろいろな行動の意味を知り、標識で見分けられる個体の性格が分かってくると、「こんなにおもしろい鳥はいないな」とタンチョウが大好きになりました。もちろん、タンチョウが飛んでいる姿は誰もが見とれます。感動します。それが頭上を通る時はなおさらです。そこにいる人から声が上がると、その場に居合わせて感動を共有できる、大好きなひと時です。「これが鶴居村なんだよ！」と誇らしく思います。

2月の求愛ダンスの最盛期に給餌に行き、目の前でタンチョウが何組もふわりふわりと舞ってくれたことがありました。思い出の中でそのシーンは音がなく、至福のひと時でした。

伊藤良孝さんと一緒に働けた3年半は、私にとってかけがえのない財産となりました。伊藤さんのタンチョウを守るという強い意志と、東京から来たよそ者の野鳥の会という団体を受け入れて下さった懐の深さに、今でも深い尊敬の念を覚えます。伊藤さんがいらっしやらなければ、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリも存在せず、私のタンチョウや鶴居村との縁もありませんでした。

いつか3度目の鶴居暮らしが叶うよう、健康で長生きしたいと思います。これからは鶴居の外からタンチョウや鶴居村の魅力を伝え続けていきます。いつかまた鶴居でお目にかかれる日を楽しみにしています。



鶴居村を離れるのが名残惜しい原田・前チーフレンジャー

引き続きよろしくお願いたします

石下 亜衣紗

原田チーフレンジャーの退職に伴い、後任となりました石下です。この1年、鶴居村で過ごし、様々な活動に参加させていただくことで、タンチョウの保護の歴史と現状、取り巻く環境、地域の方々との関わりについて、深く触れることができました。しかし、長年勤められた原田レンジャーの知識・経験には全く及びませんので、これからより一層精進して参ります。メンバーの変わった新たな鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリとの変わらぬお付き合いのほど、どうぞよろしくお願いたします。